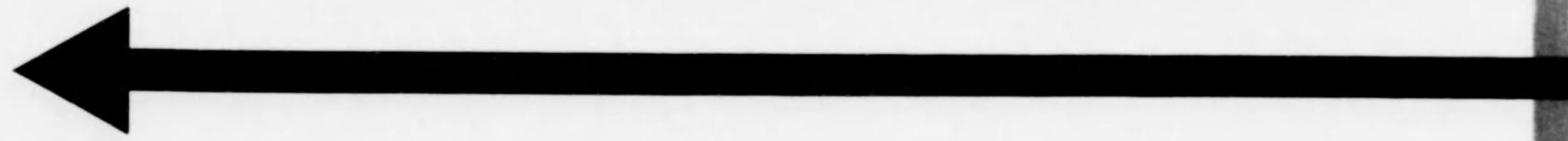


營口港

特276
600



始



營口商工會議所

特276
600

目次

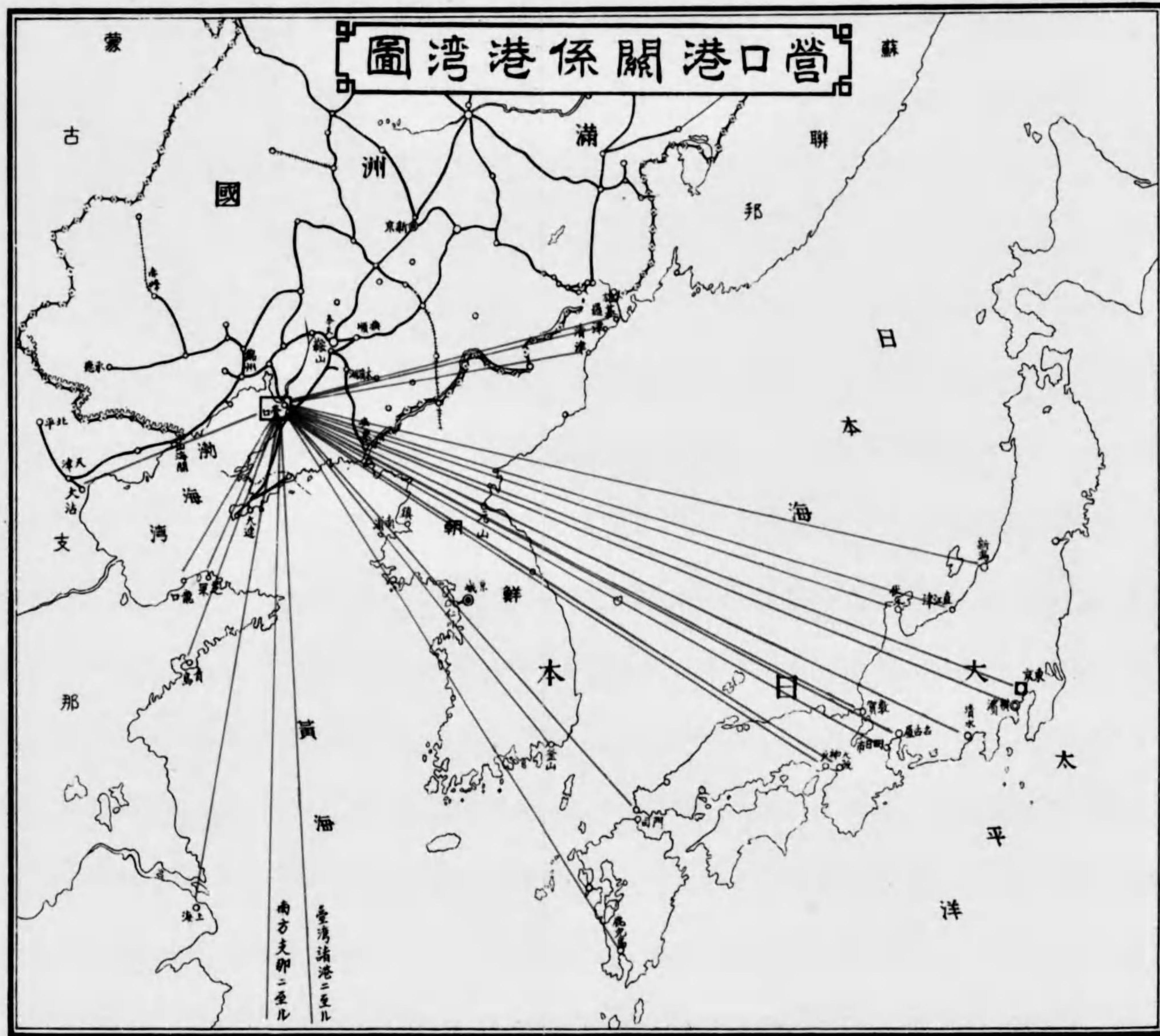
- 一、營口港關係港灣圖
- 一、營口港
- 營口港
- 貿易
- 港灣狀況
- 繫船荷役諸設備
- 諸掛
- 運貨
- 航路

贈呈

營口商工會議所



222. f



營口港

營口港 營口港は天津條約の結果その締結後三年一八六一年（文久元年）の五月英國領事メドース來り通商地として指定し最初は牛莊の名を冠し開港されて以來七十年近代滿洲開發に偉大なる貢獻を續けて來た。その位置は略東北地方の弘前と同緯度であり渤海に注ぐ遼河々口を溯るこゝ一四哩の地點に在る。即ち滿蒙物資吞吐として奧地市場に對し最短距離に位置する。その交通系路は、奧地輸送系路として南滿洲鐵道及奉山線を左右に有する外、滿蒙開發の動脈たる遼河を有して鐵路一河川を以て運輸上の三角州を形成してゐる。更に近き將來には遼河大改修工事による鞍山、奉天、營口を繋ぐ大運河實現し一方當地の上流田莊台附近に架橋して滿鐵、奉山兩線を連結し大連、營口、山海關及北支那を結ぶ最捷路の計畫あり之が實現の曉には對北支、對南支海陸路は一層當地に集中されるであらう。營口發展の過程は滿洲の發達史を意味する。遼河により集散する滿洲大豆は山東資本導入の對象となり油房の發生を促し豆油の搾取を開始し山東直隸の勞力流入を容易ならしめ、同時に滿洲拓殖の一因となり、又南支商人の渡來は綿糸布及雜貨の輸入を促し交換的に滿洲特産の全支那に對する配分の機運を造り彼等の商業技術は近代滿洲商業發達の骨子となつた。斯の如く古き歴史と問屋制度の利器により商勢著しく展延し其の背後地は遼河沿岸の都邑は勿論鐵道網の擴大に伴ひ次第に擴張されつゝあるが、錦州より北票を通り北は齊々哈爾、哈爾濱を擁し吉林を結び奉吉線に沿

ふ圏内を第一次背後地とし、山海關、赤峰、經棚より北鐵沿線一帯及び東は敦化、岫巖を抱く圏内を第二次背後地とし得るが、殊に北滿の中心市場たる哈爾濱及遼西地方の市場錦州に緊密なる關係を有することは輸移入市場としての價値を高めるものである。當港を中心として産出する主産物としては本邦工業鹽の自給自足に重大役割を演じつゝある滿洲産鹽の六四%約二四〇万担の鹽の産出あり、遼河沿岸に叢生する葦子は従來年産三五〇万枚の安平原料として用ひられてきたが昭和十一年初頭鐘紡系の康徳葦ハルブ會社進出するに及び一躍近代工業の花形たるハルブ製造の原料に化し、又二二籽東方の大石橋附近には世界第一のマグネサイト鑛床を有し其の埋藏量六〇億噸に稱せられ原鑛及びマグネシヤとして生産される等、軍需工業或は化學工業に不可欠の原料を然も無盡藏に有してゐる。當近接地一帯は地質は第四紀新層にして重粘性且つアルカリ鹽類の含有多量のため農耕、牧畜には不適當地とされてきたが近年、化學肥料施肥に因る中和、アルカリ鹽類集積の原因防止、表土轉換法等の化學征服により可耕地になりつゝある。現に遼河沿岸大濕地帯の開拓により水田が開かれ朝鮮總督府及東亞勸業の經營指導の下に昭和八年鮮民九千余名を收容する營口農村の創設を見、五年後の今日に於ては作付面積四千余町歩、七万八千石の收穫を擧げてゐる。其他市内よりは當港輸出品の大宗にして開港以來牛莊粕として著名なる豆粕(年産三五〇万枚)豆油(一、五七〇万斤)綿布(一四七万疋)煙草(五三、千ポール)タルク(二五千噸)等あり、日滿プロツクの強化は營口及營口を中心とする資源を新に認識せしめ滿洲國産業五ヶ年計畫の進行に平行

して舊套を脱し躍進せんとしてゐる。
貿易 由來當貿易の特異性は(一)常に輸移入超過なること(二)沿岸貿易に優位なること(三)戎克貿易に相當勢力を有することにあつたが最近の趨勢は従來の特長を漸次喪失し滿蒙貿易の大勢たる輸移出超過、外國貿易を主とするに至るべき諸因顯はれ斯くてこそ營口貿易が従來の滿蒙貿易伸張の大勢に對する追從的増進より眞の獨立的立場に於ける發展を期し得べきものと信ずる。

營口港輸出入貿易趨勢

(單位 國幣圓)

年次	輸 出	輸 入	計
昭和元年	五〇、三六三、〇三五	八八、八七二、〇〇八	一三九、二三五、〇四三
二年	五〇、九四三、三五二	七三、四六六、二三八	一二四、四〇九、五九〇
三年	五五、〇二五、七八九	七一、五〇〇、六一四	一二六、五二六、四〇三
四年	五三、〇四九、二九四	七六、二七九、九六五	一二九、三二九、二五九
五年	六九、四二四、二一五	八二、〇二九、八一七	一五一、四五四、〇三二
六年	一四八、〇九九、三八八	四七、九五五、五九三	一九六、〇五四、九八一
七年	八八、五七七、〇九八	二四、六五六、九七八	一一三、二三四、〇七六
八年	四三、二二五、三四八	三七、〇九一、七三九	八〇、三〇七、〇八七
九年	三六、三二五、九四二	二九、〇四九、四九一	六五、三六五、四三三
十年	四一、六〇六、二四九	二五、一七四、三五五	六六、七八〇、六〇四
十一年	五二、七〇〇、五一六	二六、三四七、二三五	七九、〇四七、七五一

(再輸出ヲ含ム)

對外貿易品目別輸出入表

品名	主なる輸出入國名	昭和十年	昭和十一年
動物及動物產品	支那	二二四、七六九	四四四、五九六
生皮、獸皮、毛皮	支那	二、二二七	八、二〇四
魚介、海產	支那	四、三二五	三八九
大豆、豌豆	支那	一四、四二二、四九六	二二、四一八、三〇六
穀物及其製品	支那	八、九六七、四三一	一三、五三五、一六九
鮮果、乾果、製果	支那	二、三八〇	一〇九
藥材及香料	支那	九八七、六五七	一、〇八四、九〇〇
油類	支那	一、一六〇、七六八	六九一、五六三
種子	支那	二、二五七、三三三	二、五二七、九九三
酒類	支那	四〇五、二二二	四七九、八八二
煙草	支那	三、八二一	一、四九二
蔬菜	支那	七八、七二五	一〇、三九一
其他植物產品	支那	七、四四一	七七、〇二一
其他	支那	五、一一三、五〇三	四三、七四四、四一一
木材、木及木製品	支那	一七〇、八〇五	一〇九、四八九
紙類	支那	一、六九一	八、五七六
紡織品	支那	九三五、九九八	一、〇七二、七二二
絲綢、絹、綢緞品、莫大小品	支那	一、三二八	二七
織物(反物)	支那	二二、一四五	一五、〇五九

品名	主なる輸出入國名	昭和十年	昭和十一年
其他紡織品	支那	六、六〇九	三、八九四
礦石金屬及金屬製品	支那	五、二九六、五八九	四、九五〇、八八一
硝子及硝子器	支那	一〇四	三七
石、泥土砂、及其製品	支那	一、一五二、二三四	一、四三九、六八七
化學品、化學產品	支那	五九、八七一	一八六、三七三
雜品	支那	九五、三二六	二六三、一四〇
計	支那	四一、三七一、七四七	五二、六二五、〇〇一
生地綿布	支那	二九八、九七三	六八〇、四九五
漂白或染色綿布	支那	一五五、〇四四	四〇一、三四〇
擦染綿布	支那	六四、二〇七	一〇二、三〇八
雜綿布	支那	一六、六四四	一五、六二五
棉花、時綿絲、綿織品	支那	一、九二六、三九八	二二、八八二、二二七
其他綿製品	支那	二五五、五八八	三八〇、五六〇
東亞麻、火麻、黃麻及其製品	支那	二九八、四七二	四五八、三七三
毛及其製品	支那	八三、八九五	一七三、九一七
絹(人絹絲)及其製品	支那	九三、八八二	二六一、九四九
金屬及其製品	支那	七七六、六九六	九七一、五八〇
機械及工具	支那	五二二、三二七	一九一、五九三
車輛、船舶	支那	九七、三三〇	一九一、五九六

雜金、銀、製品	同	九五、〇八九	一四五、二七八
魚介、海產物	日本、支那	七二、〇四〇	一八三、四一九
肉類、罐詰、日用食料雜貨	支那	一、七八六、六七五	二、三七四、五二〇
穀物及穀粉	日本	八、四六三、五七一	六、一七〇、七二六
果物、種子、蔬菜	支那	三二七、七六六	四六七、三〇五
藥材及香料	同	一、二〇一、一四四	一、〇八五、六四五
砂	日本	一、四三一、一三六	一、四九九、七〇一
酒、麥酒、洋酒、清涼飲料水	同	八七六、二三四	九六六、一七七
煙	同	一〇八、五八五	一二四、五〇六
化學產品及醫療藥品	支那	四八五、九八〇	四三四、九〇八
染料、顏料、ペイント及ワニス	香港、支那	三九八、二二七	三八四、一二六
蠟燭、石鹼、油脂、臘膠、樹脂	香港、關印	四七四、九一五	二九〇、七八八
書籍、地圖、紙、パルプ	日本、支那	一、五一八、四五九	二、〇五四、九七一
生皮、鞣皮、其他動物產品	支那	八〇、八三〇	二五七、三四五
木	日本	一、二九六、五九二	七四五、六七四
木、竹、藤、棕、藥、及其製品	支那	九〇四、一九三	一、一五七、三五二
石炭、燃料、瀝青、コークス	同	五、四二〇	一一、一一五
陶磁器、磁器、硝子等	日本	一七一、四一一	二五八、九四〇
石材、泥土及其製品	支那、日本	三三七、七三一	二〇一、〇二五
雜品	同	六八三、九二一	八二二、二五一
計		二五、一七四、三五五	二六、三四七、二三五

出入汽船民船別統計表

年次	汽船	民船
昭和七年	一、一〇一隻	七七四隻
八年	九一五	四〇〇
九年	九〇〇	二、一一六
十年	八三三	五六九
十一年	五九七	五四八
	登簿噸數	登簿噸數
	一、一一一、二六二噸	一、二、八四二噸
	八五六、七八〇	六六、六四四
	八九九、〇一四	八一、八八三
	八三四、七二六	一一、六二一
	五三二、八六七	一四、三二六

港灣狀況

- (一) 位置 北緯 四〇度四〇分一〇秒 東經 一二二度一五分三〇秒
- (二) 港界 上端 牛家屯第一立標所在地より磁針方位南五十七度西に引いた一線
下端 國際公司河北倉庫より磁針方位南五十七度西に引いた一線
- (三) 水面積

港界内 六、〇六八、〇〇〇平方米
 港外 一、二、〇〇〇、〇〇〇平方米
 港外水面積は下端港界から河口燈台船所在地點に到る間を言ふ。

(四) 水深
 港内 五・五米 || 七・五米
 港外 六・〇米 || 七・六米

(五) 汽船收容能力 (繫船埠頭を除く)
 港内
 三〇〇〇吨級 三隻
 二〇〇〇吨級 五隻
 一〇〇〇吨級 一隻
 總噸數 二〇、〇〇〇吨

繫船荷役諸設備

1、繫船壁及棧橋
 本港に於ける埠頭設備は主に左岸一帯に築造せられ構造は、混凝土土、鐵矢板、木造、石張等雜にして何れも私有である。
 滿鐵所有を除く外は、概ね自己の船舶若くは代理業務契約を持つ會社商店の船舶に利用せらるゝを普通とする。所在繫船壁の概要左の如くである。

名稱	經營者	長さ	水深	構造
亞細亞石油碼頭	亞細亞石油	二〇二米	二二・一米	石張
北方航業碼頭	北方航業公司	二二八米	七・〇米	木造
縣營碼頭	營口縣	一四五米	九・〇米	石張
遼東碼頭	鐵路總局	三三米	九・一米	木造
東稅關碼頭	稅關	一八一米	一〇・三米	木造
肇興碼頭	肇興公司	一一三米	五・〇米	木造
海邊分隊碼頭	海邊警察隊	二八米	四・〇米	木造
旗昌西碼頭	旗昌洋行	五七米	四・〇米	木造
肇興第三碼頭	肇興公司	七一米	五・五米	木造
肇興第四碼頭	肇興公司	一一三米	五・五米	木造
大通西碼頭	大通公司	一七八米	五・五米	木造
太古西碼頭	太古洋行	二三四米	七・〇米	木造
西稅關碼頭	稅關	四四米	三・〇米	木造
海邊警察隊碼頭	海邊警察隊	九五米	二・一米	木造
河北驛碼頭	鐵路總局	三九米	二・五米	石張
探運局埠頭	鐵路總局	一三八米	一四・七米	石張
滿鐵牛家屯埠頭	滿鐵	三九六米	八・七米	石張
滿鐵第三埠頭	滿鐵	五九米	八・七米	石張
滿鐵第三埠頭 (八區)	滿鐵	五四五米	一〇・一米	石張
滿鐵第三埠頭	滿鐵	一一二米	九・一米	混凝土

” 第二埠頭	太古東碼頭	太古洋行	五〇八米	六・一米	鐵板
” 第一埠頭	太古東碼頭	太古洋行	一〇五米	六・六米	木造
探運局西埠頭	探運局	探運局	九九米	六・六米	鐵板
大通東碼頭	大通公司	大通公司	一五二米	五・九米	鐵板
旗昌東碼頭	旗昌洋行	旗昌洋行	一〇六米	六・一米	木造
肇興第一碼頭	肇興公司	肇興公司	一二二米	五・七米	”
肇興第二碼頭	肇興公司	肇興公司	八六米	五・〇米	”
航政局碼頭	航政局	航政局	一〇米	四・六米	鐵板
統大行碼頭	統大行	統大行	四〇米	六・一米	鐵板
美孚行碼頭	美孚洋行	美孚洋行	八三米	五・八米	木造
北票石炭碼頭	北票煤礦公司	北票煤礦公司	一五〇米	六・〇米	捨石
河北新碼頭	鐵路總局	鐵路總局	二九九米	六・〇米	”
總計	三三箇所	全長四、九四四米	七五米	一〇・七米	”

前掲繫船壁の繫船、荷役能力を考察すれば總噸數一、〇〇〇—三、〇〇〇噸級の船舶は同時に三十三隻（繫船總噸數六九、五〇〇噸）を繫留することが出来該船舶の一日間に於ける荷役能力は二五、四〇〇噸と算定することが出来る。

右の外戎克、舢舨等の繫船延長三、三五〇米で一日の荷役能力は三、〇〇〇噸である。

2、上屋及倉庫並野積場
 康德二年十月現在に於ける貨物荷役用上屋及倉庫は總棟數六五棟總面積五五、二二三

二平方米であつて其の貨物收容能力約七〇、〇〇〇噸である。

滿鐵及總局所管上屋及倉庫は設備概ね良好なれど其他は貨物荷役上不備なる點多し野積場として貨物收容に適當なるものを有するは滿鐵及總局を第一とし其他は所謂上屋に附隨せる空地で野積場と稱し得るもの極めて稀である、營口港に於ける貨物收容可能なる野積場面積は二四九、八〇〇平方米にして貨物收容能力は 三五四、七〇〇噸である。

3、貯炭場
 當港に於て貯炭場を有するものは滿鐵會社並に北票煤礦公司以て其て面積及貯炭能力左記の通りである。

河北北票貯炭場	五二、四八〇平方米	八〇、〇〇〇噸
營口新市街北票貯炭場	四、〇五四平方米	九、〇〇〇噸
營口牛家屯貯炭場	二二七、八三八平方米	四〇〇、〇〇〇噸
滿鐵第一埠頭貯炭場	二二、七四八平方米	一四、〇〇〇噸
計	二〇五、一二一平方米	五〇三、〇〇〇噸

4、荷役設備
 當港の船舶貨物荷役は總て人力に依り機械荷役の設備なく、依つて普通接岸荷役、沖荷役の二方法に依り輸出入貨物の積揚陸作業は取扱はれてゐる。

諸掛

營口港に於ける諸掛

1、噸税(税關)

汽船	登簿噸數	一噸に付(第一種)	國幣	〇・一〇圓
同上	同上	同上(第二種)	同上	〇・五〇圓
外國貿易民船	同上	一噸に付(第一種)	同上	〇・〇五圓
同上	同上	同上(第二種)	同上	〇・二〇圓

但し第一種は其の回限り、第二回は一ヶ年間有効

2、繫船料滿鐵埠頭(及其ノ他ノ埠頭)

A、著離料

a、滿鐵埠頭	一〇〇噸未満	三・〇〇圓
總噸數	二〇〇噸同	五・〇〇圓
同上	五〇〇噸同	一五・〇〇圓
	一、〇〇〇噸同	二五・〇〇圓
	二、〇〇〇噸同	三〇・〇〇圓
	二、〇〇〇噸以上	三五・〇〇圓

備考、遼河内に於てのみ航行する帆船及舢板にして荷役の爲埠頭に發着するものに對しては著離料は之を收受せず。炭料炭又は淡水のみ搭載せむとする船舶に對しては之を五割減とす。

b、其の他の埠頭

總噸數	五〇〇噸未満	一五・〇〇圓
同上	一、〇〇〇噸同上	三〇・〇〇圓
	二、〇〇〇噸同上	五〇・〇〇圓
	二、〇〇〇噸以上	臨時の約束に依る

B、轉繫料

a、滿鐵埠頭

總噸數	一〇〇噸未満	一・〇〇圓
同上	二〇〇噸同上	二・〇〇圓
同上	五〇〇噸同上	五・〇〇圓
同上	一、〇〇〇噸同上	一〇・〇〇圓
同上	二、〇〇〇噸同上	一五・〇〇圓
同上	二、〇〇〇噸以上	二〇・〇〇圓

備考、遼河内に於てのみ航行する帆船及舢板にして荷役の爲埠頭に發着するものに對しては轉繫料は之を收受せず。炭料炭又は淡水のみ搭載のため若しくは搭載後轉繫する船舶に對しては之を五割減とす。

b、其の他の埠頭

繫船料の半額とす

3、水先案内料

A、入港船舶の場合

a、水先區境界線より河口外離地迄	吃水一呎に付 銀	汽船 三・〇〇圓	帆船 四・〇〇圓	被曳船 三・〇〇圓
------------------	----------	----------	----------	-----------

b、 進口挂燈浮標の外側より港内端地迄 吃水一呎に付 銀 八・〇〇圓 一〇・〇〇圓 八・〇〇圓
c、 内裡挂燈浮標の内測より港内端地迄 吃水一呎に付 銀 六・〇〇圓 八・〇〇圓 六・〇〇圓
d、 進口挂燈浮標の内側より水先區境界線迄吃水一呎に付 銀 八・〇〇圓 一〇・〇〇圓 八・〇〇圓

B、 出港船舶の場合
 港内端地より進口挂燈浮標の外側迄 吃水一呎に付 銀 八・〇〇圓 一〇・〇〇圓 八・〇〇圓
 總噸數一、五〇〇噸以上の船舶に對しては超過噸數一噸に付國幣四分増、吃水一〇呎に滿たざるものは一〇呎と看做す。

軍船の場合排水噸四、五〇〇噸以上のものに對してのみ徴收す。但し排水噸數三噸を以つて登簿噸數に計算す。

C、 轉繫料
 河口外端地に於ける場合 一回に付 銀 三〇・〇〇圓
 港内同上 同上 三〇・〇〇圓
 港外同上 同上 三〇・〇〇圓
 港内より港外端地間 同上 三〇・〇〇圓
 港外より港内端地間 同上 三〇・〇〇圓
 港外より港内を通過し他の港外迄の場合 一回に付 銀 六・〇〇圓
 停留料(待船料) 一時間毎 三〇・〇〇圓
 三〇・〇〇圓

D、 雙錨泊の場合 同上 三〇・〇〇圓
4、 税關仕役料及手数料(税關)
A、 時間外仕役料
 平日 自午後六時 至午後二時 國幣 二八・〇八圓

5、 戎克料(浮船料)
 汽船に積卸する雜貨 一車に付 二五・〇〇圓
 汽船に積卸する豆粕 一車に付 二八・〇〇圓
 大戎克に積卸する雜穀 一車に付 二〇・〇〇圓
 汽船に積卸する滑石 一車に付 二五・〇〇圓
 同 雜穀 一車に付 二〇・〇〇圓
 同 小口雜穀 一車に付 〇・二〇圓
 同 硫黃、硝石等 一車に付 三五・〇〇圓
 同 棉花 一車に付 三五・〇〇圓
 河北驛より新市街に陸揚する雜穀 一車に付 一七・〇〇圓
 汽船に積卸する牛馬骨 一袋に付 〇・二〇圓
 新市街より舊市街に運搬すス麻袋 一車に付 二〇・〇〇圓
 舊市街より新市街に運搬する大麥 一袋に付 〇・二〇圓
 同 雜穀 一袋に付 〇・二〇圓
 同 商鹽 一袋に付 〇・二〇圓
 舊市街より新市街に運搬する新舊鐵類 一車に付 四〇・〇〇圓
 同 セメント 一車に付 三五・〇〇圓

滑石	鐵石	苦石	石類	石類	木材	石炭	普通貨物	危險品	燐寸	石油	アルコール	火藥	其他	青麻、甘草	穀類	豆類	滑石	鐵石	苦石	
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
〇・一七圓	〇・二二圓	〇・二二圓	〇・二二圓	〇・二二圓	〇・二二圓	〇・二二圓	〇・二二圓	〇・二二圓	〇・二八圓	〇・二八圓	〇・二八圓	〇・二八圓	〇・二八圓	〇・二八圓	〇・二八圓	〇・二八圓	〇・二八圓	〇・二八圓	〇・二八圓	〇・四四圓

新市街より舊市街に運搬する麥粉
 汽船に積卸する甘草
 舊市街より新市街に運搬する雜貨
 汽船に積卸する官鹽
 新市街より舊市街に運搬する麥粉
 汽船に積卸する麻袋
 同 精鹽
 精鹽陸揚
 河北より河南へ送る石炭
 汽船より積卸する羊毛
 同 羊皮
 新市街より運搬する小口豆粉
 註、舁船上に於ける貨物の舁船は貨主の責任とす。立冬以後に於ける舁船料は二割増とす。舁料金の決算期は端午節、仲秋節及年末の三期とす。
 以上の料金は現在に於ける一般料金にして貨主により高低あり、之等の料金は我克の賃借、水上運搬及揚積作業賃を含む。

新市街より舊市街に運搬する麥粉	一車に付	二九・〇〇圓
汽船に積卸する甘草	一車に付	〇・二〇圓
舊市街より新市街に運搬する雜貨	一個に付	〇・二〇圓
汽船に積卸する官鹽	一袋に付	〇・二〇圓
新市街より舊市街に運搬する麥粉	一〇〇袋に付	〇・五〇圓
汽船に積卸する麻袋	一〇〇枚に付	〇・五〇圓
同 精鹽	一袋に付	〇・二〇圓
精鹽陸揚	一袋に付	〇・一〇圓
河北より河南へ送る石炭	一噸に付	〇・九〇圓
汽船より積卸する羊毛	一包に付	〇・六〇圓
同 羊皮	一包に付	〇・六〇圓
新市街より運搬する小口豆粉	一枚に付	〇・〇五圓

A、船内人夫賃 (積及卸) 各 一應に付 〇・一七圓
 豆 同 〇・一七圓

石類	同	同	〇・四四圓
木材類	同	同	〇・四四圓
石炭	同	同	〇・四四圓
普通貨物	同	同	〇・三三圓
危險品	(積及卸)各	一棧に付	〇・五〇圓
磷寸	同	同	〇・五〇圓
石油	同	同	〇・五〇圓
アルコール	同	同	〇・八八圓
火藥	同	同	〇・八八圓
其他	同	同	〇・一七圓
青麻、甘草	同	同	〇・二二圓
穀	同	同	〇・二二圓
7、船料 (滿鐵埠頭)			
A、船賃貸料			
石炭及鐵石類	同	一噸に付	〇・三三圓
雜貨及不工木材	同	同	〇・四四圓
B、曳船料			
港内	被曳船	總噸額	所定ノ通
	同	同	同
	一隻二時間に付	一〇〇噸迄の場合	一〇〇噸を越ゆる場合
		一〇〇噸を越ゆる場合	一〇〇噸を越ゆる場合
		一〇〇噸迄の場合の料金に金五圓を加たる額	

港外			
社外各碼頭の著陸に滿鐵小蒸汽を使用する場合			
一回に付			
8、證明手數料			
A、日本品の外國輸入證明手數料			
物品價格	五、〇〇〇圓未満		二・〇〇圓
	同	五、〇〇〇圓以上	三・〇〇圓
	同	一〇、〇〇〇圓以上	五・〇〇圓
B、原產地證明手數料 (日英間、日佛間には相互免除の取極めあり)			
物品の價格の多少に不拘		一件	二・〇〇圓
C、船舶入出港並船舶發著證明			
日本領事館廢止後日本船に限り手數料を受けず税關にて行ふ。			
註、輸入證明並原產地證明は日本領事館廢止後營口商工會議所に於て取扱へり。			
營口河北站碼頭料金 (鐵路總局)			
1、繫船料			
總噸數	一〇〇噸迄	一回	四・〇〇圓
	同	同	七・〇〇圓
	五〇〇噸迄	同	一〇・〇〇圓
	同	同	三五・〇〇圓
	一、〇〇〇噸迄	同	四〇・〇〇圓
	同	同	四〇・〇〇圓

遼河内に於てのみ貨物の揚積を爲す帆船又は浮船にして荷役の爲碼頭に著離するものに對しては之を收受せず。

2、船内人夫賃		同	五〇・〇〇圓
A、普通貨物			
B、特殊貨物			
穀物、種子、豆粕、食鹽	一聽に付	〇・二〇圓	
牛、馬、驢、騾	一頭に付	〇・三〇圓	
羊、山羊、豚	同	〇・一〇圓	
死 体	一体に付	一・〇〇圓	
危險品及火藥類	一聽に付	〇・三〇圓	
高 價 品	價格一〇〇〇圓又は其の未滿に付	〇・〇二圓	
C、濶大貨物			
一聽を越ゆるもの	一聽に付	一〇割増	
三聽を越ゆるもの	同	二〇割増	
六聽を越ゆるもの	同	三〇割増	
一〇聽を越ゆるもの	同	臨時の約束に依る	
3、船内荷繰賃			
A、普通貨物			
同1船内荷繰	一聽に付	〇・三〇圓	
B、危險品及火藥類			
C、濶大貨物			
一聽を越ゆるもの	一聽に付	〇・四〇圓	
二聽を越ゆるもの	同	〇・五〇圓	
六聽を越ゆるもの	同	五割増	
一〇聽を越ゆるもの	同	臨時の約束に依る	
4、貨物陸揚船積賃			
(1) 汽船荷役			
A、普通貨物			
B、特殊貨物			
穀物、種子、豆粕、食鹽	一聽に付	〇・三五圓	
牛、馬、驢、騾	一頭に付	一・〇〇圓	
羊、山羊、豚	同	〇・三〇圓	
死 体	一体に付	二・〇〇圓	
危險品及火藥類	一聽に付	〇・五五圓	
燐寸、石油、酒類	同	一・〇〇圓	
其の 他	同	〇・一〇圓	
高 價 品	價格一、〇〇〇圓又は其の未滿に付	〇・一〇圓	

隣接船内荷繰		同	〇・四〇圓
隣接せざる船内荷繰			
B、危險品及火藥類			
C、濶大貨物			
一聽を越ゆるもの	一聽に付	〇・四〇圓	
二聽を越ゆるもの	同	一〇割増	
六聽を越ゆるもの	同	二〇割増	
一〇聽を越ゆるもの	同	三〇割増	
4、貨物陸揚船積賃			
(1) 汽船荷役			
A、普通貨物			
B、特殊貨物			
穀物、種子、豆粕、食鹽	一聽に付	〇・三五圓	
牛、馬、驢、騾	一頭に付	一・〇〇圓	
羊、山羊、豚	同	〇・三〇圓	
死 体	一体に付	二・〇〇圓	
危險品及火藥類	一聽に付	〇・五五圓	
燐寸、石油、酒類	同	一・〇〇圓	
其の 他	同	〇・一〇圓	
高 價 品	價格一、〇〇〇圓又は其の未滿に付	〇・一〇圓	

三艘を超えるもの	同	同	一〇割増
六艘を超えるもの	同	同	一〇割増
一〇艘を超えるもの	同	同	臨時の約束に依る
(3) 舢舨荷役			
一個一〇〇噸迄のもの	一個に付	同	〇・〇七圓
同 一五〇噸迄のもの	同	同	〇・一〇圓
同 一五〇噸を超えるもの	同	同	〇・一五圓
牛、馬、驢、騾	一頭に付	同	〇・一〇圓
羊、山羊、豚	同	同	〇・〇五圓
5、荷繰賃			
A、普通貨物	一疋に付	同	〇・二五圓
B、特殊貨物	一疋に付	同	〇・一五圓
穀物、種子、豆粕、食鹽	一疋に付	同	〇・一五圓
苦鹽、燒酒、油類	同	同	〇・四〇圓
木材 (一個三〇〇疋以上一噸迄のもの)	同	同	〇・四〇圓
死 体	一体に付	同	一・〇〇圓
危險品及火藥類	一噸に付	同	〇・三五圓
燐寸、石油、酒精	同	同	〇・六〇圓
其他	同	同	〇・一〇圓
高價品	同	同	〇・一〇圓
價格一、〇〇〇圓又は其の未滿に付			

C、濶大貨物	一噸に付	普通貨物の	一〇割増
一噸を超えるもの	同	同	一〇割増
三噸を超えるもの	同	同	二〇割増
六噸を超えるもの	同	同	三〇割増
一〇噸を超えるもの	同	同	臨時の約束に依る
(2) 戎克荷役			
A、普通貨物	一噸に付	同	〇・三〇圓
B、特別貨物	一噸に付	同	〇・二五圓
穀物、種子、豆粕、食鹽	一噸に付	同	〇・四〇圓
苦鹽、燒酒、油類	同	同	〇・四〇圓
木材 (一個三〇〇疋以上一噸迄のもの)	同	同	〇・四〇圓
牛、馬、驢、騾	一頭に付	同	〇・一〇圓
羊、山羊、豚	同	同	〇・〇五圓
死 体	一体に付	同	一・〇〇圓
危險品及火藥類	一噸に付	同	〇・三五圓
燐寸、石油、酒精	同	同	〇・六〇圓
其他	同	同	〇・一〇圓
高價品	同	同	〇・一〇圓
C、濶大貨物	一噸に付	普通貨物の	一〇割増
一噸を超えるもの	同	同	一〇割増
價格一、〇〇〇圓又は其の未滿に付			

C、澗大貨物
 一應を超えるもの 一應に付
 三應を超えるもの 普通貨物の
 六應を超えるもの 同 同
 一〇應を超えるもの 同 同
 臨時の約束に依る

運賃
 營口、大連兩港の日本内地との運賃比較
 (穀物種子麥粉一車建一應に付)

發	驛	營口着運賃	大連着運賃	運賃差額
奉天	天	五・三三圓	六・八二圓	一・四九圓
遼陽	陽	三・八〇圓	六・三六圓	二・五六圓
海城	城	二・〇八圓	五・九三圓	三・八五圓
蓋平	平	二・〇三圓	五・四九圓	四・〇六圓
註、奉天以北新京間各驛の運賃差額は 一・二〇圓				

B、船車連絡料金 (同)

接	營	大	連	差	額
船内人夫賃	〇・三五圓	〇・四〇圓	〇・二〇圓	〇・〇五圓	〇・〇二圓
計	〇・五二圓	〇・六〇圓	〇・〇八圓		

C、船車連絡に非ざる場合の料金 (同)

荷	營	大	連	差	額
船積賃	〇・二〇圓	〇・四二圓	〇・三三圓	〇・〇三圓	〇・〇三圓
船内人夫賃	〇・一七圓	〇・二〇圓	〇・〇三圓	〇・〇三圓	〇・〇三圓
計	〇・五五圓	〇・九五圓	〇・四〇圓		

D、船運賃
 單位 担し内地約一〇〇斤 十月一日現在

種	類	大連―門司阪神	營口―門司阪神	營口―伊勢灣濱
豆	粕	〇・三三圓	〇・三七圓	〇・四一圓
飼料		〇・三五圓	〇・三九圓	〇・四三圓
袋物 (大豆類)		〇・三八圓	〇・四〇圓	〇・四五圓
輕量物		〇・四一圓	〇・四三圓	〇・四九圓
靱草		〇・四一圓	〇・四六圓	〇・五二圓
青麻		〇・四一圓	五・〇〇圓	五・五〇圓
甘草		〇・四一圓	五・五〇圓	六・〇〇圓

E、奉天より大豆一車扱(三〇廳)の阪神輸出一廳當運賃諸掛比較

營口經由連絡 $(5.32 + 0.35 + 0.17 + 0.40) \text{圓} \times \frac{1.666}{100} = 12.5 \text{圓}$

大連經由連絡 $(6.82 + 0.40 + 0.2 + 0.35) \text{圓} \times \frac{1.666}{100} = 13.25 \text{圓}$

兩港の差額 $13.25 \text{圓} - 12.51 \text{圓} = 0.74 \text{圓}$

營口經由連絡が金七十四錢安

營口經由連絡によらざる場合 $(5.32 + 0.35 + 0.17 + 0.4) \text{圓} \times \frac{1.666}{100} = 12.54 \text{圓}$

大連經由連絡によらざる場合 $(6.82 + 0.42 + 0.33 + 0.2 + 0.35) \text{圓} \times \frac{1.666}{100} = 13.60 \text{圓}$

兩港の差額 $13.60 \text{圓} - 12.54 \text{圓} = 1.06 \text{圓}$

營口經由連絡によらざる場合金一圓六錢安

航路

1、定期航路並就航船名

國別	經營者	航路	航路船	總噸數	起終並寄港地
日本	近海郵船	橫濱	天山丸	三、二二六	橫濱、清水、名古屋、四日市
			宮浦丸	一、八五六	同上
			玄武丸	一、八七二	同上

日本	岡崎汽船	門司、阪神	日滿丸	一、九三二	大阪、神戸、門司、大連、營口(博多)
			日京丸	一、四〇〇	同上
			日盛丸	二、八七八	同上
			日通丸	二、一七七	同上
			日清丸	一、一七七	同上
		新潟	河北丸	三、二七七	營口、大連、敦賀、新潟、伏木(直江津)
			河南丸	三、二八〇	同上
		阪神	泰安丸	三、六五一	營口、大連、門司、神戸、大阪
			興安丸	三、四六三	同上
			永安丸	三、八二五	營口、大連、橫濱、清水、名古屋(武豊、四日市)
		横濱、清水、名古屋	東崗丸	四、一八六	同上
		神戶	山西丸	三、三三四	營口、大連、基隆、高雄
			山東丸	三、三三四	同上
		横濱、阪神	三池山丸	三、一七三	營口、大連、門司、名古屋、橫濱
			生駒山丸	三、一七三	同上
			金城山丸	三、二六二	同上
		朝鮮	會寧丸	一、〇一〇	營口、仁川、鎮南浦、芝罘、大連、青島、龍口
			早隆丸	八三五	營口、大連、龍口
		朝鮮	隆順丸	八九三	營口、大連、天津、龍口、登州、芝罘、上海
		天津、上海	大通輪船	一、五三八	同上

3、營口港と各港との海上距離
A、日本内地及台灣諸港に至る

門司	七六九	四日市	一、一八五	青森	一、四〇七	横濱	一、三一九
三池	七九二	名古屋	一、一九二	室蘭	一、四四〇	瀬戸内海經由	一、三三〇
鹿兒島	八四五	境	八九〇	函館	一、四〇二	土佐沖經由	一、三三〇
徳山	八〇四	敦賀	一、〇四〇	釧路	一、三八四	清水	一、二七六
神戸	一、〇一〇	伏木	一、一七五	小樽	一、〇一〇	瀬戸内海經由	一、二七六
大阪	一、〇二〇	新潟	一、二〇〇	高雄	一、二二五	土佐沖經由	一、三三〇

單位 哩

B、朝鮮及關東州諸港に至る

新義州	三三五	群山	四六五	元山	一、〇〇五	雄基	一、二四一
鎮南浦	三六〇	木浦	四八七	清津	一、二〇一	大連	一、六五
仁川	四四〇	釜山	六九三	羅津	一、二二九		

C、滿洲國及中國諸港に至る

安東	三三五	龍口	二一五	福州	一、〇二〇	汕頭	一、二四五
登州府	二六〇	青島	四一七	廈門	一、一四五	廣東	一、五〇六
芝罘	二二五	天津	二九五	大沽	二四八		
威海衛	二六五	香港	一、四〇二	上海	六七八		

昭和十二年十一月十一日印刷
昭和十二年十一月十三日發行

營口商工會議所
編輯人 日下清癡
營口吉野町五番地
印刷人 片山頼衛
營口元神廟街
印刷所 營口印刷所
發行所 營口商工會議所

日滿貿易には

营口港を

御利用下さい

終